

曇天

西部中・2

清水 麻海

曇天に

妄想を連れて

屋台に行く

夕焼け色に

染まる空を見ても

感動もなく

何も得ずに終わる

曇天に

妄想を連れて

ただ一人歩く

友をさがしに灰色の砂を歩くも

小石を足で蹴り歩くも

木の下で枝を拾うも

何も得ずに終わる

芝に座り

友と並び

花火を見る

それができたらよいが

夜も来ず

友も来ず

ただため息のみ

曇天に溶ける

今日も音のみ聞くといい

光を見ることもなく

ただサンダルに入った砂を除く

昔の私は

窓から終わるまで見ていた

あの頃が懐かしく思い出される

物足りなさに買ったかき氷

ほのかに苦し